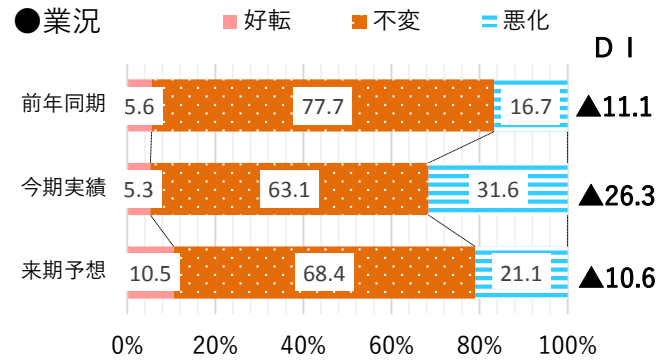


運輸・倉庫業

業況、売上、採算

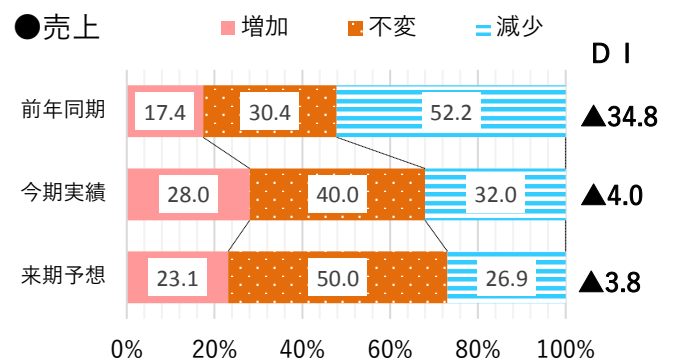
今期（2019.4～6）の業況判断DIは▲26.3で、前年同期（2018.4～6）と比べ15.2ポイント低下しました。

来期（2019.7～9）は、今期と比べ業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



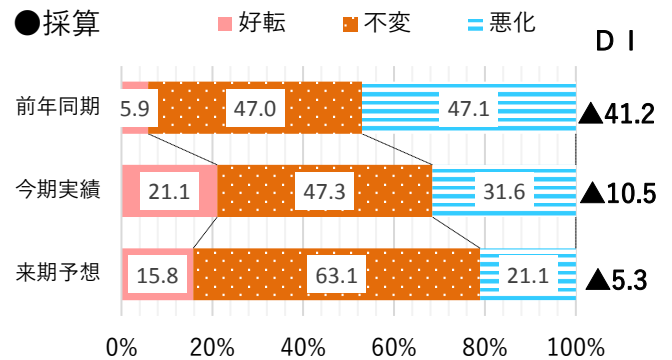
今期の売上高DIは▲4.0で、前年同期と比べ30.8ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ売上はほぼ横ばいを予想しています。

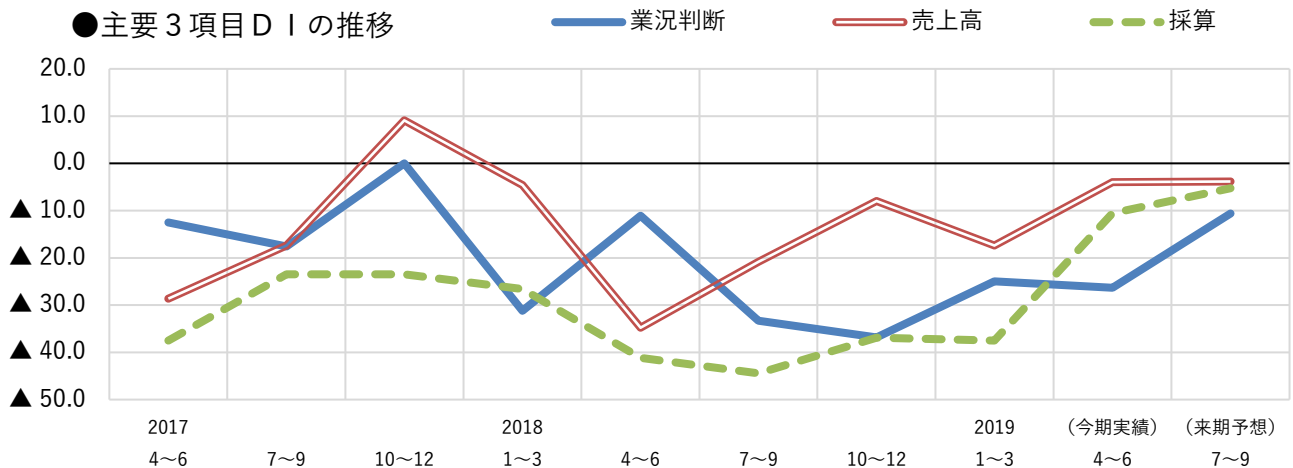


今期の採算DIは▲10.5で、前年同期と比べ30.7ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ落ち着いた動きが出るものの、採算の悪化傾向が続くと予想しています。



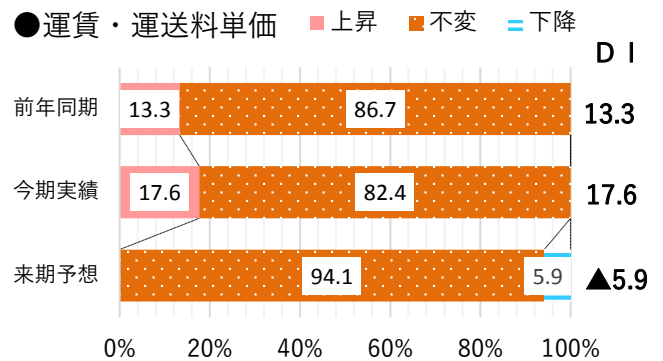
●主要3項目DIの推移



運賃・運送料単価、保管料単価

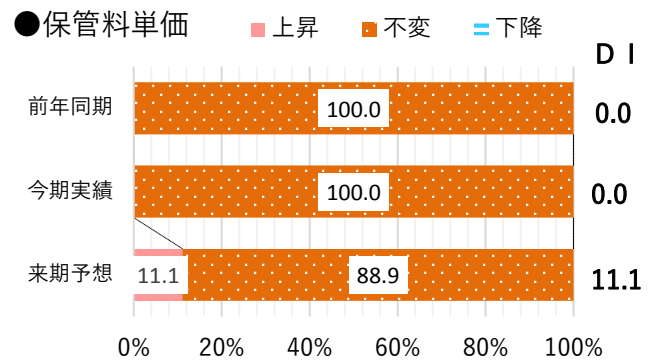
今期の運賃・運送料単価DIは17.6で、前年同期と比べ4.3ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ運賃・運送料単価が下降に転じると予想しています。



今期の保管料単価DIは0.0で、前年同期と比べ横ばいとなりました。

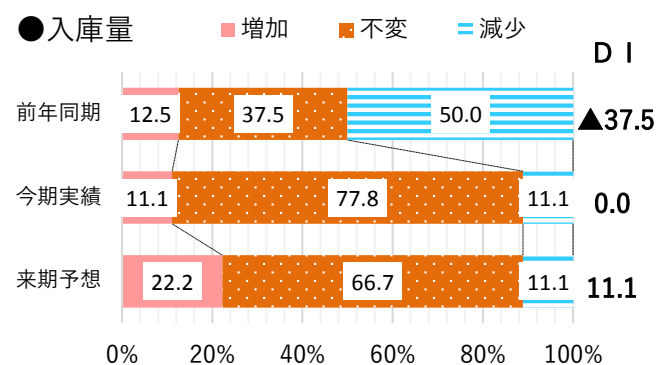
来期は、今期と比べ保管料単価の上昇傾向が強まると予想しています。



入庫量、出庫量、保管残高

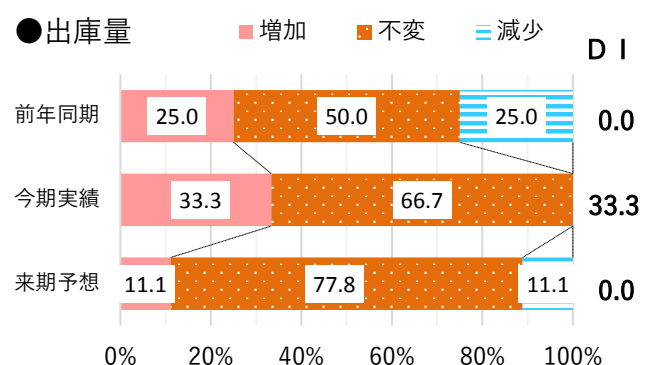
今期の入庫量DIは0.0で、前年同期と比べ37.5ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ入庫量の増加傾向が強まると予想しています。



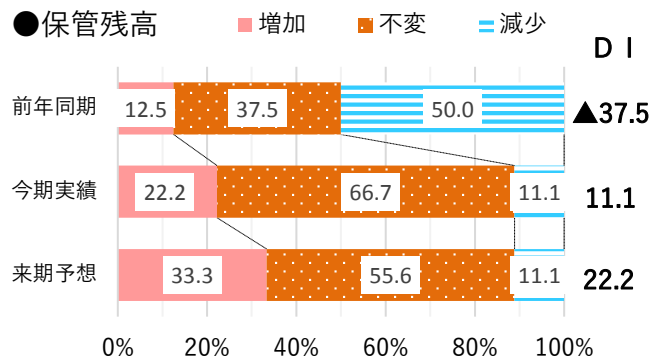
今期の出庫量DIは33.3で、前年同期と比べ33.3ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ出庫量の増加傾向が大幅に弱まると予想しています。



今期の保管残高DIは11.1で、前年同期と比べ48.6ポイント上昇しました。

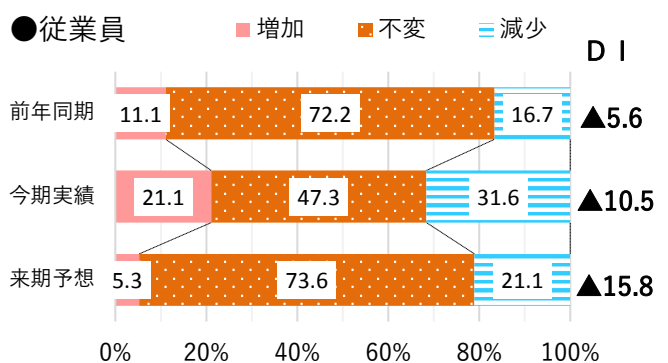
来期は、今期と比べ保管残高の増加傾向が強まると予想しています。



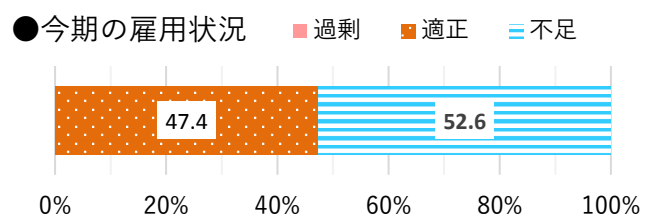
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲10.5で、前年同期と比べ4.9ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ落ち着いた動きが出るものの従業員の減少傾向は続くと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は47.4%、不足していると回答した企業の割合は52.6%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」、「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」（同位）という回答で、運輸・倉庫業全体の31.5%を占めています。

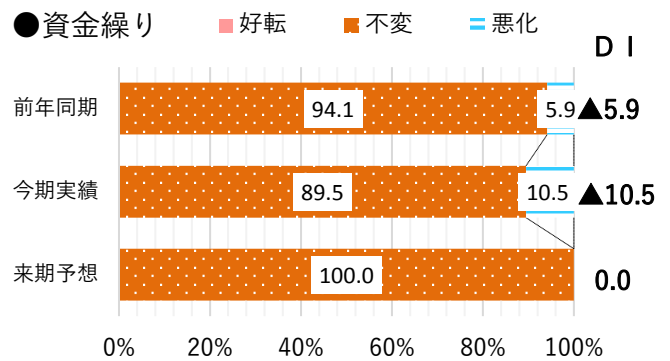
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で増加し、充足している」、「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」（同位）という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	3
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	6
	不足	3
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	6

資金繰り、設備投資

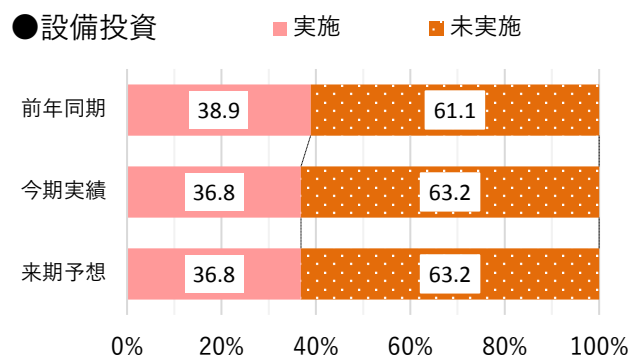
今期の資金繰りDIは▲10.5で、前年同期と比べ4.6ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ悪化の動きはなくなると予想しています。



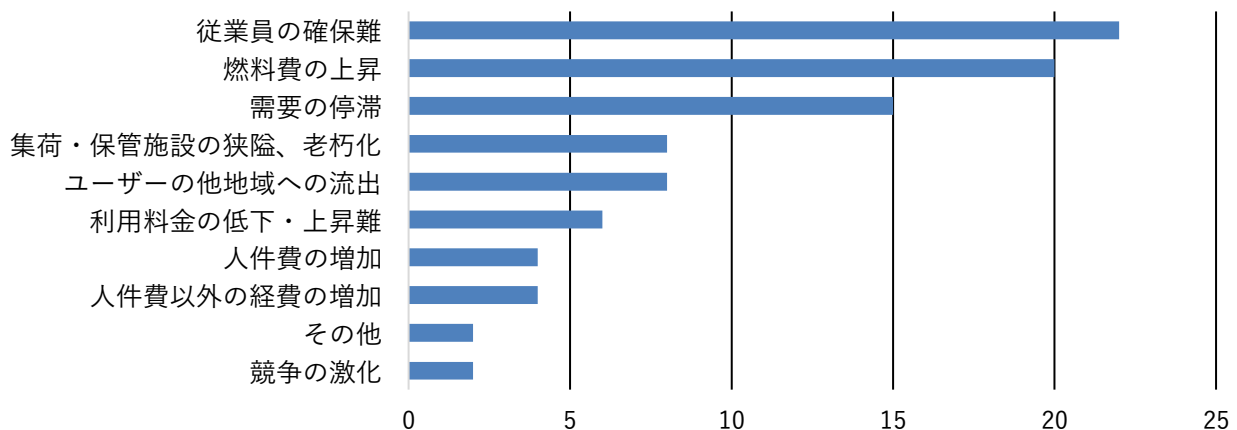
設備投資を実施した企業の割合は36.8%で、前年同期と比べ2.1%減少しました。投資内容は、1位が「輸送機材」、2位が「付帯施設」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は36.8%で、今期と比べ横ばいを予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「燃料費の上昇」、3位が「需要の停滞」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 昨年、一昨年の売上が好調だったため、反動で受注が減少している。夏に向かい、受注の伸長を予想している。従業員が不足している。(道路貨物運送)
- 貨物に占める国産小麦の割合が増加し、倉庫収益が増加した。事務職員の確保が難しい。(道路貨物運送)
- 輸送量は増加傾向にあるが、燃料価格の上昇により、増収分が相殺された。(道路貨物運送)
- 不況の影響か、物流の停滞傾向を感じる。(道路貨物運送)
- 燃料価格が上昇し、採算が悪化した。(道路貨物運送)
- 燃料価格は安定しているが、人口減少による売上減少と、ドライバー不足が課題である。(道路旅客運送)
- 従業員不足により、売上が減少した。(道路旅客運送)
- 人員が不足している。(道路旅客運送)
- 天候不順により入庫量が減少し、売上が大きく落ち込んだ。(倉庫)
- 燃料価格の上昇に合わせて燃料油価格変動調整金の収受増加となり、貨物車の単価が上昇した。(水運)
※燃料油価格変動調整金：燃料価格の変動に対して調整される割り増し料金のこと。
- ゴールデンウィークが10連休になったことで、旅客、乗用車の乗船が大幅に増加した。(水運)

[来期の業況について]

- 貨物の減少により、入庫量、輸送量が減少する見込みである。(道路貨物運送)
- 高齢者が多いため、ドライバー確保が難しくなるだろう。(道路旅客運送)
- 入庫量の増加が見込まれるため、売上も増加を予想している。(倉庫)
- 旅客需要期と農産物収穫期が到来するため、旅客収益、貨物収益の増加が見込まれる。(水運)